

〒344-0001  
埼玉県春日部市不動院野1112-1  
TEL048-760-1200  
FAX048-760-1201  
https://www.kasukabe-saintnoah.jp

# ノア Smile



### ～目次～

- 病院短信 『新型コロナウイルス感染症雑感』 佐々木 強
- 患者さんの日常エピソード 島村 美郷
- いきいき看護・介護 渡邊 ルミ子
- 作業療法室だより 栗田 歩
- 誕生日会&ミニ秋祭り 11月の行事
- スタッフ紹介 田島 雅人

## 12月の予定

- ◇ キャンドルサービス  
各病棟 12月25日(金) 16:30～
- ◇ 誕生日会  
1病棟 12月 7日(月)  
2病棟 12月16日(水)  
3病棟 12月 9日(水)  
各病棟ダイレクト 14:00～

### ミニ秋祭り

患者さんもお神輿  
練り歩き～♡

患者さんも笑顔で  
拍手喝采(\*^^)v

患者さん参加型の花笠音頭や  
きよしのズンドコ節も大変盛  
り上がりました(´ー´)ノ

お菓子を前に思わず  
ニコリ(\*^^\*)

どれにしようかな～(^^♪

### 誕生日会

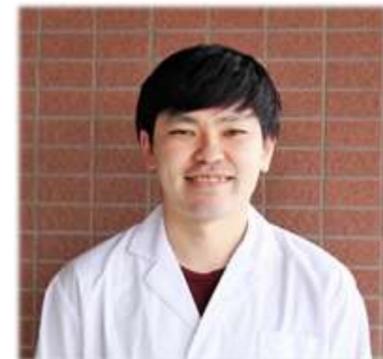
大画面で花火大会を  
開催しました!(^~)!  
映画館張りの大画面  
で音も大迫力でした  
(>\_<)

たまや～!  
かき節～!  
～やまた



サラ0歳時

サラじゃれる♡



### スタッフ紹介

栄養科  
たじま まさと  
田島 雅人

以前はホテルで働いており、病院食は初めての経験だったので不安ではありましたが、ここで働いている父の勧めで入社いたしました。プライベートでは、4ヶ月になる娘がいて、家にいる時はイクメン目指して育児を頑張っています。



『新型コロナウイルス感染症雑感』

11月に入り新型コロナウイルス感染症と診断される数が増加し、「第3波」と言えそうです。9月、10月と患者報告数はほぼ横ばいでしたが、11月中旬から増加しました。大都市圏の患者数の増加が先行しましたが、長らく確認されていなかった地方の県でも患者が確認されてきています。大都市圏のコロナ患者用病床の利用率は上昇し、医療崩壊が迫っているという医療関係者もでてきました。11月末現在、政府、知事会、政府分科会、東京都、医師会等が分析、提言を行い、どんな施策を行うのが良いか検討、調整されていると思います。

孫子の兵法に、「敵を知り、己を知れば百戦危うからず」とあります。「敵」＝「新型コロナウイルス（と症状）」、「己」＝「感染防止策（及びその効果）、治療方法+ワクチン etc」でしょうか。この「己」の部分は、既存の治療薬を応用、組合せ、救命率はかなり改善してきている印象を持ちます。死亡率は明らかに低下してきています。また、「三密」の回避、マスクの適切な使用、換気、手指消毒の励行によって防止が期待されています。

新型コロナウイルスのワクチン開発は国際的な協力も多数みられ、進展しています。国際的大手ワクチン製造企業から、期待できるデータが得られたとの発表も続いています。ワクチンの効果の詳細な発表が待遠しいところです。効果と安全性に疑いがないと確認され、接種の優先度も良く検討されることが望まれます。

さて、新型コロナと言うくらいなので、新型ではない従来からのコロナウイルスは所謂「風邪」をおこすウイルスのなかの一つで約15・20%を占め、ごく希に体力のない方が亡くなることもあると言われていました。ウイルスは、自分だけでは、コピーを大量に複製

し増える、そして、他の場所に広げることができません。一般的に、宿主する対象（動物）に感染し、その栄養分を利用し、コピーを大量に複製を作ります。感染対象が移動すれば、ウイルスにとつてのチャンスが広がります。そして、新しい宿主に到達すると同じことを繰り返す、何億年ずつとそうしてきました。コロナウイルスはRNAウイルスに属するので頻繁に点突然変異が起こる可能性があります。それが時に偶然により人間への感染性、病原性を変化させる可能性があります。全く偶然の産物です、ヒトをやっつけようと狙ったものではありません。

今はヒトとモノの流れが世界中に広がり、大量化、高速化しています。航空機然り、新幹線然り。新型コロナウイルスはこれを利用できた、偶然にです。人間が作り上げたシステムが、目に見えないウイルスにとつて、最高のチャンスを与えてしまいました。これを奪えば流行は沈静すると考えられます。移動の制限と社会的距離（ソーシャルディスタンス）は効果が見込める所以です。ただ、経済・社会活動は直接大きなダメージを被ります。人間は社会的動物で、現代社会は高度にシステム化されています。それなしでは成り立ちにくくなっています。

歴史を振り返ると、近世までの医療技術は今と比べるべくもなく、人類は感染症の世界的流行の度に、大きな痛みも経験しながら、その試練を乗り越え、社会を国を維持し、その後成長させてきました。中世ヨーロッパのペストの流行では何と人口の三割近くが亡くなったとも言われています。その様な時期を経ても、科学の力もありますが、様々な英知で、人類は再び発展してきました。今、世界中の科学者等がこの流行を乗り越えるための技術や社会制度を研究したり模索したりしています。少し時間は掛かるかもしれませんが、終息（せめて収束）宣言を聞くことが出来る日を楽しみに待ちたいと思います。

患者さんの日常エピソード



今回ご紹介のふみさんは川越に生まれ、18歳頃結婚され、中華料理店を営む夫の仕事を手伝った。お子さんに恵まれず、戦争孤児を養女に迎え育てるが、嫁いでは音信不通になる。酒乱の夫が嫌になり40歳の時家を出、東京で会社経営される方の家の住み込みお手伝いさんとして家族同様の待遇を受け働いていたという。今もこのご家族は当院入院の同意者であり、面会や費用のお支払いもしていただいています。

ご家族のお嬢さんの話では「ふみちゃん（家族にこう呼ばれていた）は、私の生まれる前から居て、何が食べたい？となんでも作ってくれました。料理もおやつもとてもおいしいの！そして話が面白くて、話題も豊富で政治から歌舞伎・芸能界のことまで、楽しく話してくれるんです。お酒も好きで、いつもコップにお酒を入れ、「夜飲むお水よ」と子供の私によく言っていました。私が大人になってそれがお酒だと分かったんですけど…(´-`;)。型破りな人生だったけど一緒にいると楽しくなり大好きです」と面会の時に話されます。94歳の時に転倒、骨折をしてからは、病院や施設への入所を繰り返し、ご家族の知人の紹介で、平成28年9月に当院に入院されました。その頃は自分で食事をし、OT活動にも参加されていました。

笑顔がかわいくて、みんなを安心させてくれるふみさんは、今年103歳。現在は当院で一番のご高寿となりました。朝、起こしに行くと雨の日でも「いいお天気ですね」とお決まりの第一声。お食事の介助の時も目が合うと「おいしい」といつもほんわかとした感じの笑顔が返ってきます。看護・介護スタッフたちは、ふみさんの怒っているところを見たことがないんです。

ご家族は「他人の世話ばかりしてきた。この病院で心安らかにゆったりと過ごしてほしい」と話されます。

1病棟 看護主任 島村 美郷

いきいき  
看護・介護

動かないくせに、風邪も引きやすく、このままじゃまずいなあ、と思っています。冬に限ったことではありませんが目前の健康を考えると、必要な要素は次の3点にまとめられます。

- ① 感染症の予防
- ② 環境の調整
- ③ 食事と運動

それぞれ、言われてみれば「ああ、そうだよ」と思えることばかりですよ。

今年、最も重要とされているのが感染症の予防ですね。すでにインフルエンザやコロナなどに感染しながら、人ごみに紛れている人もいます。そういった人と不用意に触れ合ってしまった際のリスク軽減、また咽喉や鼻の粘膜を乾燥させにくくする意味でも「マスク」着用はとても有効と言われています。

最も難しいのは食事と運動。

「食べ過ぎ、飲み過ぎを避け、身体を動かすようにする」と言われても簡単なことではありません。

そこで慣れないことを新しく「やる」より、「やらない」ことを決めてみるというほうがよいです。

- ・夜8時以降の飲食をしない
- ・空きっ腹にお酒を飲まない
- ・1時間以上、同じ姿勢でいない
- ・トイレを我慢しない
- ・身体を冷やさない
- ・起き抜けに走らない
- ・ひとつからでも、ぜひ取り入れてみてください。

3病棟  
看護師  
渡邊  
ルミ子

普段から動くのが億劫なのに、冬になると寒さが相まって、ますます動きたくなくなります。運動不足も、太り気味なもの、自覚しているのですが…。

作業療法室  
だより

作業療法士  
栗田 歩

師走を迎え、慌ただしくなるとともに本格的な冬の寒さがやってきましたね。作業療法室では育休からの復帰者に加え新たな仲間が加わったことで、慌ただしくも楽しみながら日々奮闘中です。新たな体制となったことで、患者さんとの活動をさらに充実したものとしていきたいとみんなで熟慮を重ね、新たなスタートを切りました。

そのひとつとして、今回はダイルームでの集団活動について少しお話してみたいと思います。この活動ではこれまで作業療法士1人で会の進行を行っていましたが、これまで以上に多くの方に関わり内容の充実を図っていきたくと考え、2人での実施の機会を作りました。この活動では多くの方が参加しやすいよう、体操や歌などを中心に行っています。大勢の方が参加する会なので、積極的に取り組まれる方もいれば、声掛けや促しを受けることで関心を向けられるという方、隣で歌うことでわずかですが口ずさむことが出来る方など、興味や意欲、取り組み方も人それぞれです。2人のスタッフが入ることで、1人でも多くの方が参加できるように患者さんとの関わり方、新たな内容での取り組みなどを工夫し試みています。

新たな仲間が加わったことでそれぞれの色を出し合い、お互いの色を合わせより良い色を出していきたいと思っています。

— 2 —